授業科目	＊精神看護学実習(2022 年度入学生)					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	必修	開講年次	3～4	開講時期	後期・前期
担当教員	前田　由紀子、矢治　亜樹子						
授業概要	精神科病棟に看護師として勤務した経験を活かし、より実践的な実習内容とする。精神科病棟における患者との対人関係を発展させ、日常生活を整える援助を通して看護の実際を学ぶ。患者のストレングスに気づくとともに、セルフケア能力を高める看護を実践する。さらに、看護実践の過程を振り返り自己洞察しうる能力を養う。また、地域への自立支援にむけた看護活動の実際にふれ、精神障がい者の地域生活支援について統合的な視点を身につける。						
授業形態	実習：学生は教員および実習指導者の指導・助言を受けながら、主体的に実習に取り組む。				授業方法	実習	

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1．精神に障害を持つ人への治療と治療的環境について理解ができる。 2．精神に障害を持つ人への理解ができる。 3．患者―看護者関係の発展過程を理解し、治療的かかわりを学ぶ。 4．精神に障害を持つ人を受け持ち、セルフケア能力をアセスメントし、必要な援助を行う。 5．精神医療における社会復帰の現状および問題点と看護の役割・機能を理解する。 精神に障害を持つ人を理解し、入院患者の治療と治療的環境について理解ができる。精神に障害がある人を受け持ち、患者―看護者関係の発展過程を理解し、治療的かかわりを学ぶ。また、受け持ち患者のセルフケア能力をアセスメントし、必要な援助を行う。精神医療における社会復帰の現状および問題点と看護の役割・機能を理解する。
理想的レベル	標準的なレベルをすべて網羅できたうえで、精神看護学実習を、積極的、主体的に実践できる。受け持ち患者以外にも精神病理（生物学的、力動的）と治療について理解し、セルフケア援助技術や方法を実践することができる。援助家庭の再構成を通して、学生自身の対人関係の持ち方について気づき、自己洞察をすることができる。地域で生活する精神障がい者を理解し、地域精神保健活動の課題と展望を考えることができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物	55%	実習記録
その他	45%	実習への取り組み

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NU31323J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）

実習前に事前学習として提示する。実習中は看護過程の展開、その他の記録物に沿って学習を進める。	0

授業計画	
第 1 回	閉鎖病棟または開放病棟において、原則として患者 1 名を持ち、病棟の看護体制に準じて精神看護学実習を行う。指定された 2 週間で、受け持ち患者の状態と病棟の状況に即して講義・演習で学んだ知識や方法を基に実践する。詳細は実習オリエンテーションで配布する「実習要項」を参照する。（前田由、矢治、新任）
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	精神看護学演習において配布したプリント 岩崎弥生, 渡邉博幸（編）新体系看護学全書 精神看護学概論 精神保健 第 6 版 メヂカルフレンド社 岩崎弥生, 渡邉博幸（編）新体系看護学全書 精神障害をもつ人の看護 第 6 版 メヂカルフレンド社 水谷緑　精神科ナースになったわけ　イーストプレス 南 裕子（編/著）　アクティブ・ナーシング　実践オレムアンダーウッド理論　こころを癒す（講談社）
課題に対するフィードバックの方法	事前学習、レポート外の提出物（実習に関する記録）は、コメントを入れて返却する。実習内容、実習記録に関する課題は、個別指導やグループディスカッションにてフィードバックする。
学生へのメッセージ・コメント	これまでに学んだ精神疾患及び精神看護学に関する講義・演習の振り返りをしておく。 精神科看護に関する図書やビデオ学習、精神障がい者社会復帰施設などのボランティア参加・見学などの機会を活用して精神医療の理解を深めてください。